

1. 2) 性能試験

(1) 炉心・遮へい試験

炉心・しゃへい特性(前回試験との実効増倍率解析精度の比較)

・臨界時の制御棒位置:

Core1994 --- 全て約 540 mm 引抜 (BCRはともに全引抜)

Core2010 --- CCR1(中心) **400mm**、その他 全(1000mm)引抜

←訂正箇所

・解析精度を世界の主要核データライブラリ間で比較

JENDL-3.3(日本 2002年)、JENDL-4.0(日本 2010年)

ENDF/B-VII.0(米国 2006年)、JEFF-3.1(欧州 2006年)

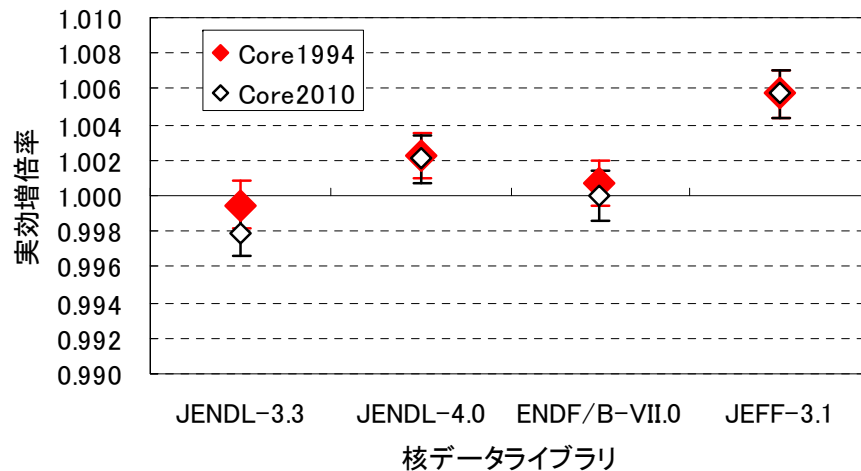


図1 臨界での実効増倍率解析結果
(実験値=1.0)

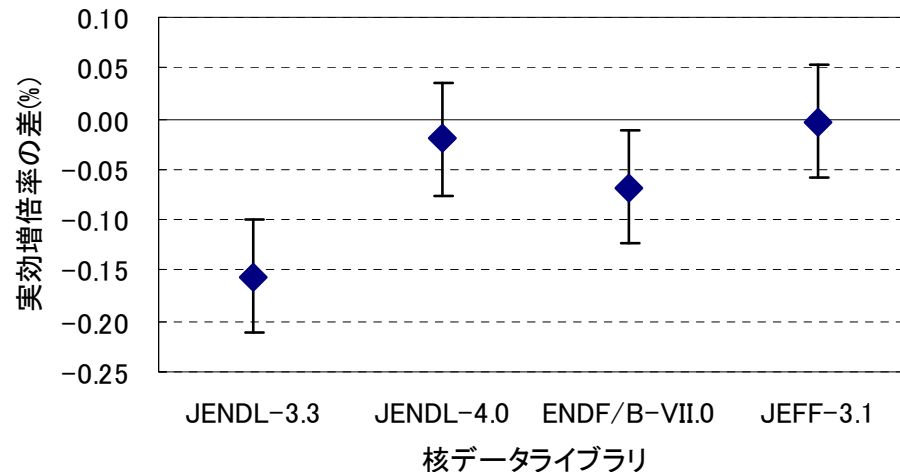


図2 図1の炉心間の差分抽出結果
(実験値=0.0)

・JENDLは0.2%(注)以内の解析精度を有する。
(注)中心付近での全制御棒価値15mm相当

・JENDL-4.0は炉心(燃料組成)依存性がない。
・**アメリカシウム(Am)のデータ精度が寄与。**